沖縄の げんき 仕掛人

愛する町のために、地域の元気のために、一生懸命活動している人がいます。
このコーナーではそれを「沖縄のげんき仕掛人」と呼び、
ユニークな活動を応援していきます！

地域と子供たちで作り上げた感動のミュージカルで「糸満おこし」

ハーレーやサバニ作り、旧暦行事など独特の文化や習慣が残るウミンチュのまち、糸満市。豊漁や航海安全の守り神で有名な「白銀堂」の由来をひもとき、歴史や文化を盛り込んだミュージカルが、去る1月に上演され大きな反響を呼びました。西崎太陽児童センター所長の玉城善子さん、脚本・総合演出担当の安田辰也さんにお話を伺いました。

西崎太陽児童センター所長 玉城善子さん（写真右）｜1951年、糸満市出身。市内公立保育所にて31年保育士として勤務し、2005年に西崎太陽児童センター所長として赴任。ミュージカル「白銀の風」の原案を書き下ろす。

サウンドクリエーター 安田辰也さん（写真左）｜1975年、糸満市出身。祖父の代からの生粋のイチマンチュ。高校卒業後、スウェーデンのサーカス団にスカウトされ、半年間活躍。2000年より市内のがじゅまる児童センター職員として勤務。現在はサウンドクリエーターとして活躍。

げんき 糸満の子供たちを思う熱い気持ちから生まれた「白銀の風」。

糸満市立の西崎太陽児童センターは、地域の子供たちの交流の場として一九九六年に開設されました。ここでは遊びやダンス、友達とスポーツを楽しむ子もいます。赴任当初から子供たちと接する中で、センター所長の玉城善子さんは現代っ子の大きな変化にとまどいました。

「子供たちに夢がないんです。将来の夢を聞いても『別に…』という感じ。チャレンジ精神がなく、友達に対する思いやりも足りない。ショックでした」

小さなくり舟で、遠い外国へも果敢に漁に出ていた糸満のウミンチュの気概と勇気。夢や希望に向かう先人の勇気が現代に伝わっていないと玉城さんは感じ、「どうにかしたい」と思うようになりました。

ちょうどセンターが十周年を迎えた昨年に書き上げたミュージカルの原案は、夢や希望を持たない現代の小学生が一九四一年の糸満にタイムスリップするという壮大なストーリー。勇気をテーマに、糸満のシンボル「白銀堂」の由来やウミンチュの町の歴史、ハーレーやエイサー、わらべ歌などが存分に盛り込まれています。この糸満初の地域おこし劇「白銀の風」は、昨年四月には文部科学省の「文化体験プログラム支援事業」の指定を受け、予算化されました。子供たちによる演劇が現実のものになったのです。

げんき 三十名の子供たちの小さな活動が、地域を巻き込んだ大きな広がりに。

ミュージカルは不思議な再会も導きました。脚本と音楽、総合演出を担当した安田辰也さんは、実は玉城さんがオムツを替えた赤ちゃんの一人。

「運命を感じました（笑）。海外で沖縄や糸満のことを知らない自分にショックを受け、沖縄に戻った僕にとって、糸満の地域おこし劇への参加は大きな意味がありました」

糸満在住の音楽家、杉本信夫先生や元ウミンチュのオジー、子供たちの父母をはじめ、地域の人々の大きな協力を得て、三十名で始まった「白銀の風」出演の子供たちも、最終的には百五十六名に膨らみました。

「居場所がなくキレやすかった子、仲間との協調性がない子、自分に自信が持てなかった子が、練習を重ねる毎に大きく変わった。大人が環境を与えることで子供はみんな伸びます。ほめて励ますことで、どんな子も可能性を開花できる！」

子供たちの活躍の場、ミュージカルを通じて、玉城さんは大きな確信を持ちました。

げんき ミュージカルで実感した地域の誇り、感動を胸にこれからも。

出演した子供たちとそれを支えた父母や関係者、鑑賞したすべての人が感動に涙したミュージカルの運営は父母会主体で引き継がれ、年内の再演が望まれています。また、十一月三日・四日に沖縄で開催される「第八回全国児童館・児童クラブ沖縄大会」において、ミュージカルのダイジェスト版が上演される予定です。

「演劇楽しかった！」「またやりたい！」と安田さんの側に集まってくる子供たちの瞳には、大きな夢や希望が宿り、役者の道に目覚めた子もいます。自分にしかできない役割を胸にみんなが輝いていました。

玉城さんは、「先人が後世に残したかったことを大人たちがしっかり伝え、子供たちに沖縄大好き、地域大好きの精神を芽生えさせたい」と今後の抱負を語ります。ミュージカルをきっかけに、地域の子供たちだけでなく、それを見守る地域の大人たちの胸にもイチマンチュの誇りがよみがえりました。西崎太陽児童センターを中心に始まった糸満おこしのムーブメントは、地域全体に大きな広がりを見せ始めています。糸満のまぶしい元気がそこにありました。

●糸満市立西崎太陽児童センター ☎ 098-992-4228

美ら島沖縄 ちゅらしまおきなわ

沖縄県広報誌　平成19年5月1日発行第31巻5号通巻380号

企画・編集　沖縄県知事公室広報課
発　　行　沖縄県知事公室広報課
〒900-8570
那覇市泉崎1-2-2
電話（098）866-2020

制作・印刷
株式会社エマエンタープライズ
〒900-0006
那覇市おもろまち1-5-26
電話（098）868-9332

編集後記

今月号から、「美ら島沖縄」をリニューアルしました。いかがでしたか？表紙では、伝統工芸品が作られる様子を取りあげていきます。新担当ともども、引き続きよろしくお願いします！（R）

この4月から広報誌の編集の担当になりました。皆様が広報誌を読んで、「新しい沖縄を発見した！」と感じられるような広報誌を目指します！（ノア）

てぃだサンサン 食べたらがんじゅう沖縄産！

毎月第3金曜日・土曜日は、「おきなわ食材の日」です。